

目的 経済大国日本に対する非難はエコノミックアニマルという言葉に象徴されるように働き過ぎがそのまとなっている。政府は摩擦解消のため、労働時間の短縮や週休2日制の導入を官公庁や企業に呼び掛けている。一方、余暇時間の増大にともない、ゆとりの問題ともかかわってその過ごし方は国民の最大関心事になってる。昨年はこのような状況の中での男性の余暇時間の過ごし方や被服行動などについて調査をもとに検討を試みた結果、余暇行動の多様性や被服行動に世代差を見いだすことが出来た。今回は女性についても同様の調査を行い世代差や男女差について比較検討した。

方法 近畿圏に居住する満18才から60才までの女性750名を対象に1989年12月、配票留置法による質問紙調査を行った。主な質問項目は仕事と余暇および家庭生活に対する考え方や満足度・休日の過ごし方および余暇の服装・生活態度・衣生活態度・購買態度である。データの分析には単純集計およびクロス集計を用いた。

結果 女性は世代にかかわらず、余暇とは生活を楽しむためのものと答えた者が多いが、年代の高い男性に仕事上のストレスを解消するもの、体の疲れや緊張を解消するものと答えた者も多く男女差が見られた。休日の過ごし方は、男性にドライブやスポーツで過ごすものが多いのに対して、女性はショッピングや家事に占める割合が多い。また、年代が高くなるほど趣味で過ごすものが増加するなど世代差がみられる。女性の休日における服装は上衣ではシャツやブラウスの着用が多く、下衣では各世代ともパンツの着用が多い。そのなかで男性ほどではないがジーンズの占める割合も高い。